

# 院内糖尿病学習会活動報告

発表者 笹井三枝

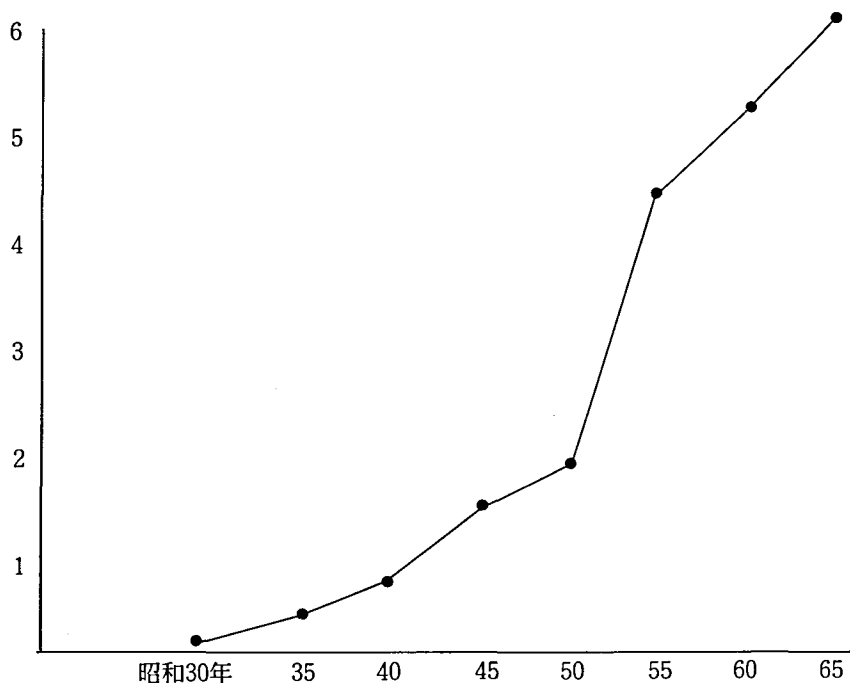
院内糖尿病連絡会委員一同

## I はじめに

近年、成人病である糖尿病が増加傾向にあるが、当院各科においても糖尿病患者が多くなっている。糖尿病は血糖のコントロールによる合併症の予防が第一の治療で、食事・薬物・運動療法が大切であり、患者指導が重要なきめとされている。

しかし、当院では糖尿病指導に関しては、各科の医師の考え方により個々に行なわれている。そして外科系では内科紹介とするだけで、ほとんど指導は行なっておらず、糖尿病治療を受けていても、三大合併症も知らず退院される患者もいた。また、外来患者に対しては医師からのコメントのみで統一された指導がなされない現状であり、入院・外来を含めた糖尿病指導の要求が高まった。そこで内科系医師と看護婦及び栄養課が主体となり、実際に患者と接しながら糖尿病指導を行なう院内全体企画による学習会をもつことになった。

図1 糖尿病の年次別有病率（人口千対）



## II 経 過

- (目 的) 患者の全般的な知識を広めるための集合教育と、各科の個別教育に継続できるものとする。
- (名 称) 院内糖尿病学習会
- (対 象) 入院患者、外来患者及び家族
- (内 容) 糖尿病指導の原則的なもの、一般的なものとする。  
個別指導は各々病棟、外来とする。

### <表1>

#### 院内糖尿病学習会 年間計画 (1987. 3)

1. 食物を計って食べる習慣をつける。
2. 1単位、何gかをわかるようにする。
3. 表1、表3を中心に年間で食品交換表を。  
表1～表6までをわかるようにする。
4. 季節の物を取り入れてゆく。

(日 時) 月1回、第三土曜日 13:00 ~ 14:30

### <表2>

#### 指導内容と担当科 (1987. 3)

4月	卵と大豆製品	(老年内科 脳神経外科 ICU 皮膚科 RI)
5月	魚と肉	(栄養士)
6月	ひや麦 ひやし中華	(第三内科 泌尿器科 第一外科 婦人科)
7月	果物	(眼科 神経科 整形外科 共通外科)
8月	油	(第二内科 放射線科 耳鼻科 手術部)
9月	ラーメン うどん	(第一内科 TB 第二外科 産科)
10月	乳製品	(老年内科 脳神経外科 ICU 皮膚科 RI)
11月	アルコール	
12月	おもち	(第三内科 泌尿器科 第一外科 婦人科)
1月	甘いもの	(眼科 神経科 整形外科 共通外科)
2月	辛いもの	(第二内科 放射線科 耳鼻科 手術部)
3月	寿司	(第一内科 TB 第二外科 産科)

(方法) 講義の内容は担当科医師にまかせる。食事指導などは看護婦・栄養課が担当し、患者がわかりやすい内容とした。

(学習会構成メンバー)

一内・二内・三内・老年内科・眼科の糖尿病担当医師及び栄養士、各科の糖尿病連絡員  
看護婦の役割：会場準備 司会 ポスター PR 書記

患者と共に参加し、個々の患者の問題を把握し患者が解る様に展開する。  
準備委員会及び反省会をもつ。

院内糖尿病学習会報告

<表3>

糖 尿 病 学

回数	内 容		参加人数	
	医 師	看 護 婦	患 者	職 員
第1回	糖尿病とは 発症のしくみから治療まで 合併症について	果物について	84	70
第2回	糖尿病の正しい理解 神経合併症について 食事療法 自覚症状について	餅について おせち料理について アルコールについて	43	41
第3回	糖尿病と眼の話 眼の合併症 治療について	外食について (麺類) 一日の食事記録をとる	53	45
第4回	命もゆる時(映画) 日常生活の注意点	主食について 御飯をはかる おにぎりについて	43	32
第5回	食事療法について スライドを中心に インスリン療法 内服薬療法 運動療法	間食について (甘いものを食べたい時) お菓子について	42	28
第6回	糖尿病の合併症について 心臓の合併症について	食品交換表(見方ポイント) について 蛋白質について(卵と豆腐)	28	36
第7回	わかりやすい食品交換表のポイント 肉と魚について 1600kcalの糖尿病食について	*栄養士さんへ協力	20	42
第8回	糖尿病のコントロールと実際	夏に向けて冷たい麺類について バランスのよい一食とする	16	36
第9回	糖尿病と眼の話 糖尿病はどうして発病するか	果物について (スイカ ブドウなど)	24	22
第10回	検査について	油について		

習 会 報 告

費用	患者の反応	反 省
	糖尿病とは恐ろしい 病気と再認識した	多数の参加者があり、外来患者の把握ができなかった 会場がわかりやすい様ポスターをはったらどうか 受講者は出席カードに記入し持ってきたら
2,000円 切り餅 豆餅	糖の制限により体重 をコントロールする 意味がわかった	席への案内を工夫する 受講カードを徹底してほしい
2,800円 うどん他	眼の怖さは聞いてし っていたがスライド と先生の話でよくわか かった。	わかりやすい栄養指導のあり方を考える 糖尿病と診断された時は栄養指導を行なってほしい 食品交換表を前もって読んで学習させてほしい 指導後の患者の反応を栄養室に返してほしい
信和会よ り米をい ただく	実際に御飯を握り量 を確かめられた	単位・カロリー・グラムの関係を理解させるのはむずか しい 食品交換表を学習会に持ってきてもらう
2,000円 菓子 だいふく		栄養士さんより早い時期に栄養指導を 会に出席して質問も出せずに戸惑っている人もある 個別指導はベットサイドで行う必要あり
600円 卵 豆腐	卵M・L実物より 1単位の大きさを 知ることができた 豆腐1単位の大き さがわかった	職員は患者さんのサイドに座って指導できればよい 食事を作る人に聞いてほしい 栄養指導室もでき、指導の時間もとれたので大いに利用 してほしい
2,900円 材料費他	魚や肉の買い方 調理の工夫など がわかった	患者さんの出席が少なかつた。一人一人の働きかけ動機 つけが少ないように思う 3日間の食事を調べてみて指導が必要と思った。 (看護婦の食事)
	実際を見てよく わかった	実物で確かめられるような研修をしていく 患者の出席を多くするような働きかけを
3,000円 材料費	眼の合併症と血糖 血糖のコント ロールについて わかった	食品交換表のことから、復習しながらの話でわかりやす かつた 1単位がどのくらいという展示の方がわかりやすかつた のでは 空腹時の対処について話してほしかつた

150

図2 院内糖尿病学習会参加状況（第1～第10）

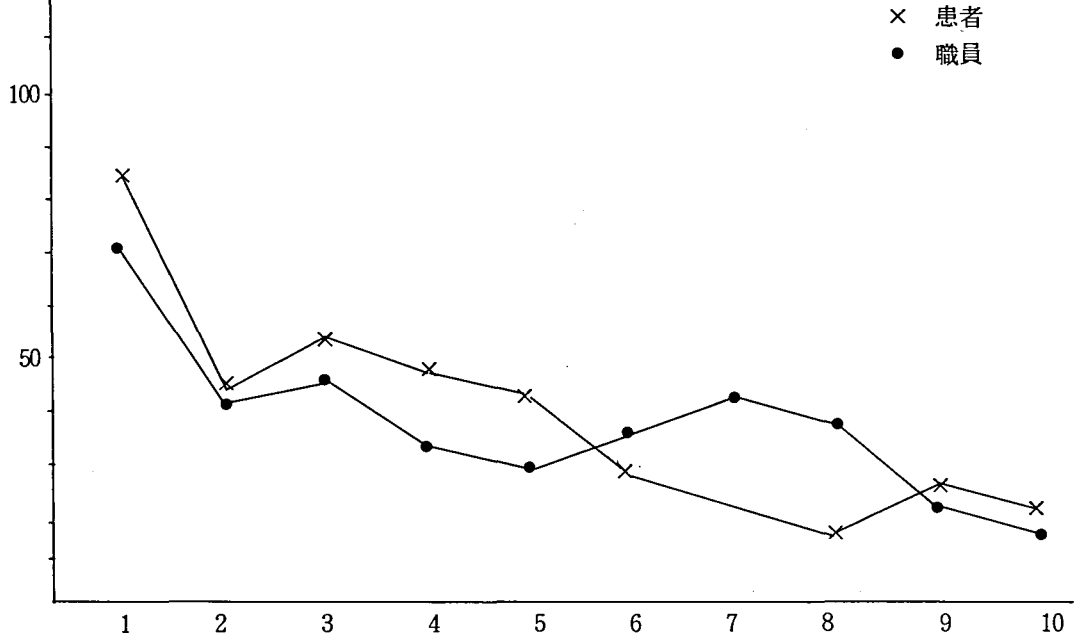


図3 院内糖尿病学習会参加者内訳（名簿より）

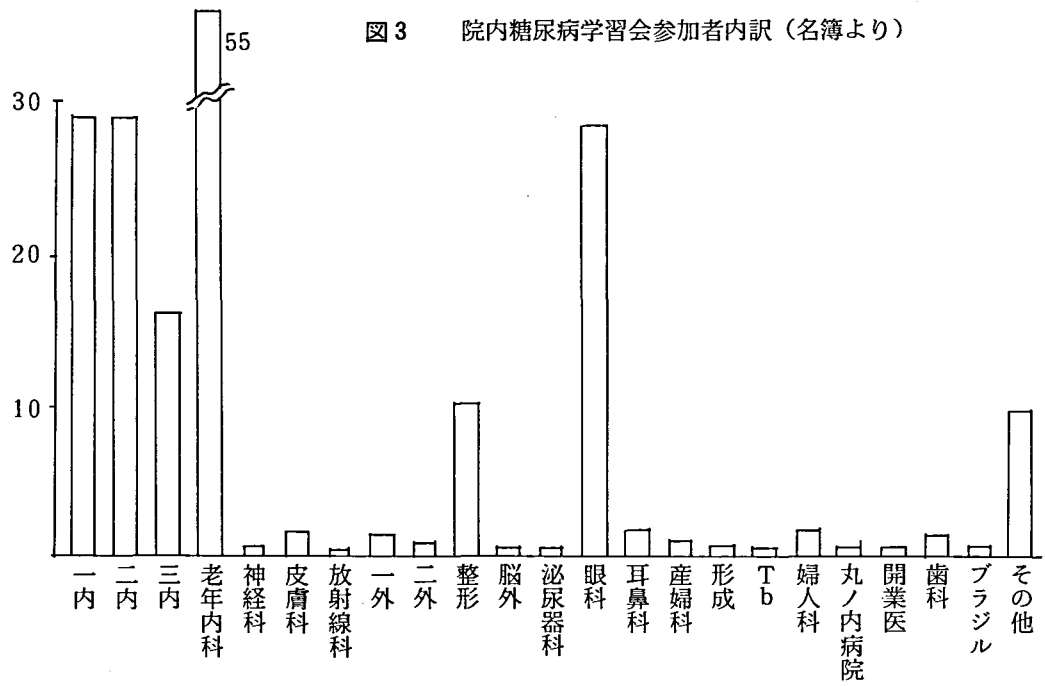
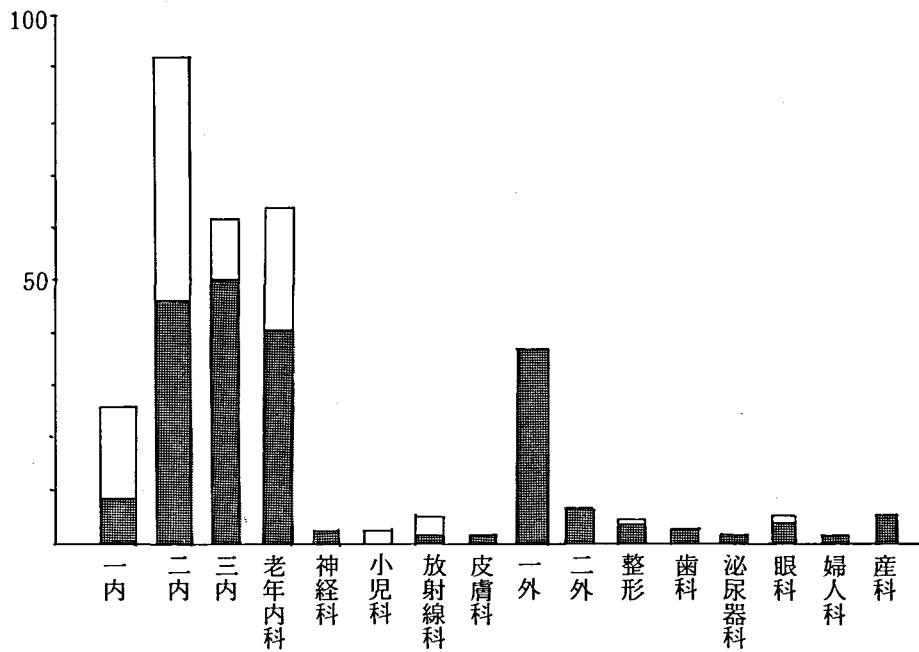


図4 栄養指導患者情況（1987.1月～10月）



### Ⅲ 今後の方針

- 1) 糖尿病診療の半分は教育である。集合教育は動機づけと基本的なものをテーマとして実施していく、むずかしいことは言わない。
- 2) 真の教育は、個別性が必要であるが『あの会へ出せば教育してくれる』となるようにする。質問をうけて、一緒に勉強していく。
- 3) 患者は頭でわかったといっても実行は別である。何度も繰り返さなくてはならない。
- 4) 年間計画をたてて実施していく。患者、職員にプログラムを配れるようにする。